第１章　概要

1　自然環境の概要 17
(1)　地勢 17
(2)　気象 17
(3)　生物相 18
2　全体的調査概要 19
(1)　調査目的 19
(2)　調査対象 19
(3)　調査期間 19
(4)　調査者 19
3　佐伯市自然環境調査研究会 20

概 要

1　自然環境の概要

(1)　地勢

佐伯市は大分県の南東部に位置し、北は津久見市、西は臼杵市及び豊後大野市、南は宮崎県に接しており、南部から西部にかけては「祖母傾国定公園」の一角をなす山岳地帯によって区切られている。面積は903.4 ㎡、東部は豊後水道に面し、四国を望む南北269kmに及ぶリアス式海岸が続いており、この海岸線は「日豊海岸国定公園」に指定されている。

地域内は、番匠川流域の平野部（沖積平野）を中心に発展した市街地と、西部と南部の山間部地域、東部の海岸部地域に大きく区分される。

山間部地域においては、傾山(1,605m）、夏木山、桑原山に代表される急峻な山々が連なっており、ブナ・ツガ等の自然林が残っている。また、スギ・ヒノキの植林も盛んで、豊かな森林資源を有している。このように彩り豊かな森と清流がつくる景色が本地域を特徴づけている。

海岸部地域においては、リアス式の変化に富んだ海岸線、複雑に入り組んだ湾や浜辺が美しい景観を創出している。なかでも、佐伯湾、蒲江湾、米水津湾等は天然の良港となっており、豊富な水産資源を有している。また、佐伯湾に浮かぶ大入島、元の間海峡を隔てた大島、蒲江湾に浮かぶ屋形島、県境の深島等の島々は優れた自然と景観を有している。

本地域の中央部を流れる一級河川の番匠川は、豊後大野市に接する三国峠を源流としており、幹川流路延長38km、流域面積464k㎡で、流域人口は65,000人に及ぶ。番匠川は、堅田川、井崎川、床木川、久留須川等をはじめとし、多くの支流を有している。また、宇目地区の傾山系を源流とする中岳川、桑原川等は宮崎県に流下する五ヶ瀬川水系の北川に合流している。

(2)　気象

佐伯市の気象は、山間部地域、海岸部地域、平地部地域の大きく３地域に分かれる。山間部としては宇目地区、本匠地区、直川地区及び弥生地区、海岸部としては蒲江地区、米水津地区、鶴見地区及び上浦地区、平地部としては佐伯地区が該当する。

山間部地域の代表である宇目地区は、平成９～１８年度の年間降水量平均が約2,150mmであり、特に梅雨期、台風期の降水量が多いこと、冬は降水日数が少なく、日照時間が長いこと等があげられる。また、内陸的な特徴も有しており、晴天日には冷え込みが強く、最低気温が海岸部よりもかなり低くなり、逆に最高気温は高くなる傾向がみられる。

海岸部地域の代表である蒲江地区は、平成９～１８年度の年間降水量平均が約2,600mmと最も多く、梅雨期とともに、台風期の降水量が300mmを超える一方、冬季には月間数10mmにまで減少する。日照時間は年間を通して長く、特に冬季は県内でも他地区と比べて長くなっており、冬は晴天に恵まれる特徴がある。

佐伯地区は、平成９～１８年度の年間降水量平均が約2,500mmであり、他地区と同様、梅雨期、台風期の雨量が多くなっている。気候は蒲江地区と同様冬でも暖かく、冷え込みも弱くなっている。

(3)　生物相

佐伯市の植物は、海岸部から山間部にかけての海抜0mから約1,600mまで、多くの種類が多様に生育している。

海岸部では、岩上に亜熱帯系のアコウが点在し、大島では林になって生育している。岩場を中心に乾燥に強いウバメガシの林が蒲江地区仙崎以北に見られ、上浦、鶴見地区には生育状態の良い林が見られる。岬の斜面には山腹にスダジイの林が見られ、一部コジイが混じっている。特に典型的なスダジイ林は、海崎の大宮八幡、蒲江の王子神社の社叢等に見られる。谷部にはタブノキの林があり、やや内陸の丘陵地を中心に佐伯城山、宇目の宗太郎の谷斜面に代表されるコジイの林が広がっている。弥生地区の愛宕神社、直川地区内水の熊野神社等、一部の社叢にはイチイガシが残っている。中でも特記しなければならないものは、堅田の下城、弥生の祇園に残るハナカガシの林で、それぞれ国、県の天然記念物に指定されている。

標高600mあたりには、宇目地区の鷹鳥屋神社の社叢に代表されるようにアカガシの林が見られる。常用広葉樹林は800mあたりからツガ、モミの針葉樹林となり、傾山、夏木山等の1,000mあたりからブナ、ミズナラの林となって、林床はスズタケが繁っている。これらの地域では山頂の岩場を中心にヒメコマツ（ゴヨウマツ）、ツクシシャクナゲの林となっている。

河川は汽水域にヨシ、淡水域の礫原にツルヨシが繁茂している。番匠川河口付近にはハマボウの群落が分布している。中流域にはセキショウモ、堅田川のヒメバイカモ等、県内では他に見られない植物が分布している。

市内で広く見られる人工林は谷や斜面にスギ、尾根などにヒノキが分布している。また、一部椎茸原木としてのクヌギやコナラがある。その他特記すべき植物として、蒲江地区葛原のクズモダマ（カマエカズラ）、沖黒島と米水津地区竹野浦のビロウ、本匠地区のホウライクジャク等がある。

動物層は豊富で、ほ乳類では傾山系の国天然記念物に指定されているニホンカモシカをはじめ、ヤマネ、カワネズミ、本匠地区の石灰岩の洞窟に住むノレンコウモリ等が生息している。

鳥類では沖黒島にカワウとオオミズナギドリの営巣地がある他、佐伯、弥生、宇目地区のクマタカ、オオタカ、蒲江地区のカラスバト、傾山系のホシガラス、宇目、本匠地区のアカショウビン等の生息情報がある。

爬虫類では佐伯、鶴見、弥生地区のシロマダラ、鶴見、蒲江、本匠地区のタワヤモリ等が生息していて、蒲江地区の元猿海岸はウミガメの産卵地として知られている。

両生類では佐伯、弥生地区にオオイタサンショウウオが生息していて、特に佐伯城山では標準山地となっている。

その他の動物では佐伯地区狩生鍾乳洞のノムラマシラグモ、カリウオニアリズカムシ等の真洞窟性の動物、本匠地区鹿淵のゲンジボタル、鶴見地区鶴御崎のヒメボタル等、また本匠地区の石灰岩地のオナガラムシオイガイ、蒲江地区深島のムラサキオカヤドカリ等の貴重な生物が多く生息している。

2　全体的調査概要

(1)　調査目的

平成１７年３月に１市５町３村が合併し誕生した佐伯市は、903k㎡という九州一広大な面積を有し、山、川、海に囲まれた多様で豊かな自然に恵まれた地域であり、住民はその恩恵を享受してきた。これからもこの貴重な財産を将来へ引き継いでいくためには、自然環境の現況特性、特に保全すべき対象を明らかにし、その保全施策を具体化しなければならない。したがって本調査においては、保全すべき自然環境の種類、生息場所及び価値等を明らかにすることを目的とする。

(2)　調査対象

対象地域は市内全域とし、全ての場所を詳細に調査するのは不可能であるため、重要ポイント及びチェックポイントを選定する。

対象項目は地形・地質、植物（植生・植物）及び動物（哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・昆虫類・魚類・大型甲殻類）とする。

(3)　調査期間

調査の実施期間は大きく３期（第１次、第２次、第３次）に分け、第１次調査はH21年度～H23年度、第２次調査はH24年度～H26年度、第３次調査はH27年度～H29年度とし、第２次及び第３次調査は、それぞれ前次調査の結果に基づき、対象項目の欠落部分や追跡調査が必要な箇所について実施するものとする。

(4)　調査者

市内在住の専門家を中心とした組織「佐伯市自然環境調査研究会」を設置し委託する。

佐伯市自然環境調査研究会

分野	氏名
地質	都留　俊之
植物	真柴　茂彦
	今井　勉
	原田　種昌
	出納　洋一郎
	伊東　満
哺乳類	平野　憲司
鳥類	武石　宣彰
両生類・爬虫類	高野　裕樹
	立川　淳也
	宮島　尚貴
	石田　淳
昆虫類	花宮　俊策
貝・海藻	神田　正人
	立川　淳也
	宮島　尚貴
魚類	立川　淳也
	宮島　尚貴
	高野　裕樹
大型甲殻類	立川　淳也
	宮島　尚貴